

第75回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2018年2月25日（日） 10:50-15:25 私立海城高校

2 参加者

渡邊、畠山、瀧上、宮嶋、丹羽、上村、藤原、田口、南島、飯田

3 前回議事録案の承認

提案の通りに承認された

4 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

・2/14、次期高校学習指導要領案に対するパブリックコメントの募集が始まったことが報告された。

5 教育検討委員会関連の報告事項

- ・2018 J p G Uパブリックセッションの進捗状況について、予定していた講演がすべて投稿されたことが報告された。
- ・国際対応小委員会の活動として、10月にA G Iのメンバーを迎えた巡検が静岡で行われる予定で、3月にその下見を実施することが報告された。

6 協議

(1) 次期高校指導要領パブリックコメントについて

次期の「地学基礎」案では、J p G Uが昨年2月に提出した提言の内容と似通っており、我々の提言が指導要領作成に一定の影響があったのではないかと判断した。

パブリックコメント案として、次の内容を提出することを決定した。

- ・探究活動の時間を確保するために、現行の地学基礎の骨子を生かしつつ、主に宇宙に関する内容をの一部を削除し、地学基礎は「地球に関する科目」という性格付けが高まったとは評価できる。
- ・堆積構造の特徴など、地層の形成に関する内容が削除されたように受け取れるが、実験や観察から思考力を働かせるプロセスを重視することを考えると、妥当ではない。
- ・内容の取り扱いについて、「地球の科学・日本の自然環境」では、東北太平洋沖地震や将来発生が予想される南海トラフでの巨大地震を考慮して、「地震や火山活動」ではなく「地震・津波や火山活動」と津波を強調すべきである。
- ・地学が専門でない教員が探究活動を円滑に実施できるようにするため、条件整備が必要である。

(2) 大学入学共通テスト（新テスト）の問題分析について

問題分析を行い以下のような指摘がなされた。

- ・思考力を競争試験で試すのは難しいのではないかと。また表現力の測定もマークシート形式のテストでは難しいのではないかと。
- ・地学や物理では、過去のセンター試験の問題を再活用するなど、今までとそれほど変わりのない出題がなされたが、膨大な知識が要求される現行の生物に対しては、どのような問題を作るのか、一番変革が問われたのではないかと。
- ・探究活動をベースにした問題では、問題設定の文章が長くなる傾向があり、むしろ読解力が試されている。

(3) 教育課程小委員会の次年度行事計画について

下記の行事とその予算額を確認し、企画運営の概要について検討した。

- ・地球惑星科学実習帳の普及については、紙媒体ではなく、CDに記録して配布することを確認した。連合大会で配布できるよう準備を進める。担当は宮嶋委員。
- ・全国高校教員情報交換会については、今年度のような規模の交換会は2年に一度の開催とすることを確認した。
- ・HPの充実については、改めてHP作成の講習会を開催し、HP管理を担う担当を育成することを確認した。

した。担当者は藤原委員（主担当）、畠山委員、宮嶋委員。

（４）地学フォーラム交流会について

5/19（土）午後、SHIRASEで行うことですすでに計画進行中だが、同日にJ p G Uの教員向け講演が計画されていることが判明し、両企画が両立できるよう調整を図ってゆくことを確認した。

（５）その他

- ・2018年度J p G U教免講習協力要請について、この間の経緯が報告された。追加の委員として南島委員があたることを確認した。
- ・2018年度パブリックセッション当日、講演要旨等を記した冊子がある方が良いのではないかとの意見が出され、コンビーナ団に検討を依頼することを確認した。
- ・連合の理事選挙にて、教育担当理事として推薦している市川氏が当選した場合、教育課程小委員会の委員として加わっていただくことを確認した。

7 次回小委員会

当面、小委員会を開催すべき案件がなく、状況に応じて開催を行うことを確認した。